

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第 **42** 号

平成14年 7・8・9月



重要文化財 木造如意輪観音半跏像 石山寺

平常展

仏教美術の名品

7月23日(火)～  
本館・東西新館

特別展

観音のみてら  
石山寺

8月9日(金)～9月8日(日)  
東西新館

特別陳列

西大寺古絵図は語る  
—古代中世の奈良

9月14日(土)～10月6日(日)  
東新館



# 観音のみてら 石山寺

八月九日(金)～九月八日(日) 東西新館  
◆主催 奈良国立博物館

良弁僧正らうべんによる開基と伝える石山寺(滋賀県大津市)は、琵琶湖から南流する瀬田川に面した岩山に所在しています。

この地は天平宝字三年(七五九)に造営を開始した保良宮ほらのみやの旧在地と考えられています。石山寺は保良宮との関わりの中で、天平宝字五年(七六二)より拡張造営工事がおこなわれ、本尊としていずれも塑造の二臂丈六観音像および二軀の神将形像が安置されました。これらは承暦二年(一〇七八)に火災に遭い、現在は断片のみ伝えられますが、罹災後の再興像は根本像の形制を踏襲し、

本堂厨子内に秘仏として安置されています。また金銅仏や經典など、創建当初の遺品は他にも少なくありません。

平安時代に入ると、石山寺は醍醐寺流の密教寺院に変貌し、学僧として名高い淳祐しゅんすうの来寺により、学問寺としての伝統を築いてゆきます。この時期の遺品として、とくに仏像彫刻や密教図像、典籍が豊富にのこされています。

また石山寺は西国三十三所の第十三番札所となり、観音信仰の霊場としても

多くの参詣者を集めました。

とくに貴族の女性の参籠が流行したらしく、紫式部が当寺で『源氏物語』を書きはじめたという伝説も、こうした背景によるものでしょう。

このような歴史を反映して、石山寺には古代から中世にかけての、南都仏教や密教、また観音信仰に基づく優れた仏教美術作品が多数伝来しています。本特別展は、寺外初公開の作品を含め、これらを一堂に会する初めての試みです。本展を通じ、石山寺の歴史と伝統、ひいては日本の仏教美術のすばらしさを堪能していただければ幸いです。

## 《主な出陳作品》

- ◎木造如意輪観音半跏像、◎銅造観音菩薩立像、◎木造大日如来坐像〔快慶作〕、◎木造維摩居士坐像、◎木造兜跋毘沙門天立像、◎木造毘沙門天立像 以上石山寺、木造如意輪観音半跏像(法輪院)、◎仏涅槃図、◎不動明王二童子像、◎釈迦如来像へ校倉聖教図像、◎俱利伽羅龍劍三童子像へ校倉聖教図像、◎石山寺縁起絵巻、◎釈摩訶衍論、◎淳祐内供筆聖教へ薰聖教、◎延暦交替式、◎仏説浄業障経(吉備由利願経)、◎石山寺一切経、◎銅鐸(以上石山寺)

◎Ⅱ国宝 ◎Ⅱ重要文化財



◎木造大日如来坐像〔快慶作〕 石山寺



木造如意輪観音半跏像 法輪院



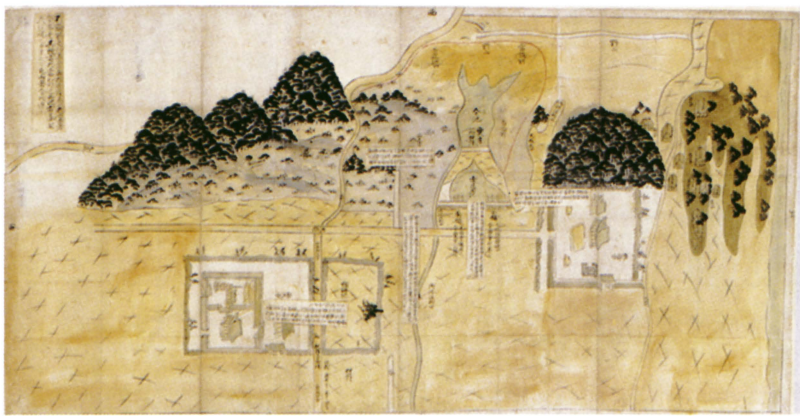
◎不動明王二童子像へ校倉聖教図像 石山寺



# 西大寺古絵図は語る 古代中世の奈良

九月十四日(土)～十月六日(日) 東新館

◆主催 奈良国立博物館・東京大学文学部・真言律宗総本山 西大寺  
◆後援 日本経済新聞社 ◆協力 東京大学史料編纂所 ◆協賛 (株)飛鳥園



◎大和国西大寺与秋篠寺堺相論絵図 東京大学文学部

平城京の右京、東大寺と対称的な位置に営まれた西大寺は、奈良時代後期に称徳女帝によって創建された大寺です。平安時代にはたびたびの火災で衰えますが、鎌倉時代に観尊(興正菩薩)によって律宗寺院として再興され、今日に至っています。この西大寺には鎌倉時代に描かれた古代・中世の寺地に関わる絵図がまとまって伝えられています。これらの絵図は、古代・中世における奈良の景観を今に伝える貴重な史料として注目されてきました。近年の歴史研究では画像史料が重要な研究対象となっています。西大寺の絵図群に関しても、古代史・中世史・考古学・歴史地理学・仏教史など、各方面からの研究が進められており、その歴史景観が復元されつつあります。

それぞれの絵図を見つめると、古代・中世の歴史的世界が圧倒的な力で迫ってきます。多角的な最新の研究成果に触れていただきながら、絵図を通じた過去との出会いを体験していただければ幸いです。

《主な出陳作品》 ◎西大寺寺中曼荼羅(西大寺)、◎西大寺古伽藍敷地并現存堂舎坊院図(東京大学文学部)、◎大和国西大寺伽藍絵図(西大寺)、◎大和国西大寺往古敷地図、◎大和国西大寺敷地図、◎大和国西大寺敷地之図、◎大和国添下郡京北条里図(以上東京大学文学部)、◎大和国添下郡京北班田図(西大寺)、◎大和国添下郡京北班田図、◎大和国西大寺与秋篠寺堺相論絵図(東京大学文学部)、◎大和国西大寺与秋篠寺堺相論絵図(西大寺)、◎大和国西大寺領之図(東京大学文学部)、◎西大寺資財流記帳、◎西大寺三宝料田畠目録(以上西大寺)

## 平常展

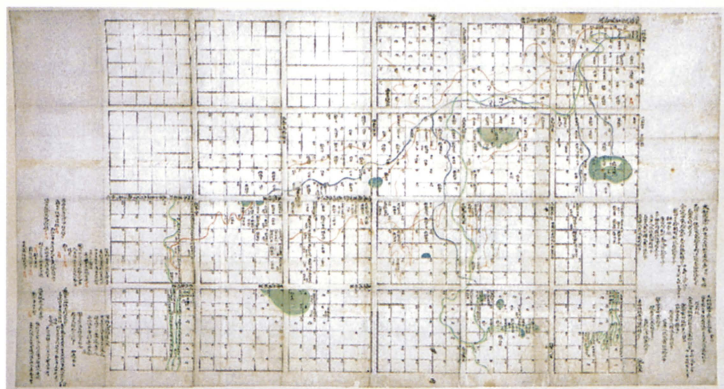
## 仏教美術の名品

本館 7月23日～ (彫刻)  
西新館 7月23日～10月6日 (工芸・考古)  
9月14日～10月6日 (絵画・書跡)

本館・西新館では仏教美術の名品を彫刻・工芸・考古・絵画・書跡の各ジャンル別に展示します。  
特別展の開催中も、本館のみの観覧を希望される場合は平常展料金で入館できます。



春日龍珠箱(外箱) 当館



◎大和国添下郡京北班田図 西大寺



# 展 示 評

外からみる奈良博

## 特別展『東大寺のすべて』を振りかえって

井上 一穂（同志社大学文学部助教授）

編集部から特別展の辛口批評をとの依頼があり、辛口はなかなか難しいのですが、言いながらお引き受けした。そこで、筆者が勤める同志社大学の博物館実習受講生達（3・4年生中心の約140人）に、特別展見学後に行ったアンケートで、悪い点として多かった意見を整理してみてもどうかと思いついた。このまとめは最後に述べるとして、まずは本展のもつ多様な意義のうち、わたしの考える三点を指摘しておきたい。

一つ目は、今日までの東大寺に関する研究および展覧会の総括としての意味を持つという点。これは本展の8章にわたる構成が美術・歴史・宗教・民俗といった各分野に及んでいることから分る。また、昭和55年に大仏殿の昭和修理落慶を記念した「東大寺展」（奈良国立博物館のほか4ヶ所で開催）と比較して、この間の22年に行われた南大門仁王像の解体修理や境内各所の発掘などで発見された品々が展示されていることでも理解できよう。

二つ目は、法華堂伝日光・月光像および戒壇院四天王像という塑像群の移動展示をされたこと。わが国でこの規模の展示はかつて無い。ことに伝日光・月光像に関しては、いつの時代にか法華堂に安置されてから、第二次大戦中には他の乾漆像と同じく疎開計画はあったものの実行に至らなかったもので、これまで堂から動いたことのない像と考えられる。そして脆弱な塑像ということを考えても、極限の展示といえるのである。ゆえに、もし「文化財移動史」なるものが書かれるとしたら、本展は特筆されるべき事例となるであろう。

三つ目は、別会場として東大寺法華堂の執金剛神像を特別開扉されたこと。従来から考えられていた展示方法とはいえ、実際に行われた例はなかなか聞くことがない。その中であつてさらに、執金剛神像の厨子の前に通路を特設し、展示場と連携することく、間近で明るく拝見できるという実に効果的な方法を考案されていた。ただ本会場内では執金剛神像に関する展

示はみられず、地下通路のパネルや図録を見なければ関係がわからないという点は惜しまれた。

さて最後に学生達の意見から得られた本展のマイナス評価をまとめて記しておく。設備では、トイレや休息場所が少ないという意見に集約できた。これは展示面で目立った出陳点数が多すぎるという意見に関連しよう。大規模展示で見ると長時間を要するからだ。展示面では他に、動線が複雑で混乱したという意見も多かった。壁付きケースと独立ケースの見学順序をいうのである。動線問題は、本館との関連が分りづらかったとか、のぞきケース内で順路が逆になる所があったなどの意見にも及んだ。フロアプランの配布が必要だとの、解決策に繋がる指摘もあったことを申し添える。また少数ながら展示位置が高く、身障者の人には見づらいのではという意見もあった。その他、展示に単調な部分があったとか、会場の照明が暗かったという意見も比較的多かったが、それよりも多数を占めたのが説明が難しいということである。古美術展示の宿命とも言えるものだが、工夫は望まれる。

以上、これらの意見が今後のより良い展示に役立つことを願いつつ、本展で感動を与えてくれた関係各位のご尽力に心から敬意と感謝を表して終わりたい。



月光菩薩像の搬出風景



展示風景





特別展

「観音のみてら 石山寺」

8  
／  
9  
ゝ  
9  
／  
8  
東西新館

【絵画】

◎石山寺縁起絵巻、◎仏涅槃図、◎不動明王三童子像、十羅刹女図、天川弁才天曼荼羅、良弁僧正像、弘法大師像、◎石山寺校倉聖教のうち胎藏界三昧耶曼荼羅・胎藏界三昧耶敷曼荼羅・蘇悉地手契図、仏眼種子曼荼羅・釈迦如来像・不動明王三童子像△坐像▽・不動明王三童子像△立像▽・不動明王三童子像△玄朝様▽・不動明王頭部図・俱利伽羅龍剣三童子像・妙観察智法・法性寺円堂炉壇様・壺図・念珠図(以上石山寺)

【彫刻】

◎木造如意輪觀音半跏像(石山寺)、木造如意輪觀音半跏像(法輪院)、塑像斷片、◎銅造釈迦如來坐像、◎銅造觀音菩薩立像、◎木造維摩居士坐像、◎木造大日如來坐像、◎木造大日如來坐像〔快慶作〕、木造大日如來坐像、◎木造不動明王坐像、◎木造兜跋毘沙門天立像、◎木造毘沙門天立像、◎木造持国天・增長天立像、木造阿弥陀如來坐像、木造地藏菩薩立像、木造南無仏太子立像、木造追儼面(以上石山寺)

【書跡】

●漢書へ紙背に金剛界念誦私記、●  
史記卷第九十六・九十七殘卷へ紙背に  
金剛界次第、●玉篇卷第廿七後半へ紙  
背に護摩科文六種、●春秋經伝集解

卷第廿六残卷△紙背に四分戒本▽、●春秋經伝集解卷第廿九残卷△紙背に真言儀軌▽、●釈摩訶衍論、●淳祐内供筆聖教△薰聖教▽、●延暦交替式△紙背に南天竺般若悉曇十八章▽〔淳祐筆〕、●越中国官倉納穀交替記残卷△紙背に伝三昧耶戒私記▽、●周防国玖珂郡玖珂郷延喜八年戸籍残卷△紙背に金剛界入曼荼羅受三昧耶世界界行儀▽、●仏説浄業障經△古備由利願經▽、●十誦律卷第五十二△称徳天皇勅願經▽、●大般若經音義中卷、●説一切有部俱舍論、●法華玄賛義決、●不空三藏表制集卷第三、●法華義疏、●俱舍論記、●俱舍論疏・俱舍論頌疏、●本朝文粹零本、●叡山大師伝、●智證大師伝、●行歷抄〔円珍記〕、●建久年中檢田帳、●石山寺一切經のうち10点、●石山寺校倉聖教のうち4点〔以上石山寺〕

【工藝】

金銅宝塔、水晶製五輪塔、扁額、金銅密教法具、 $\wedge$ 光子内親王施行 $\vee$ 、金銅密教法具、金銅戒体箱、金銅柄香炉、金銅如意、水晶製念珠（以上石山寺）

【考古】

◎袈裟襴文銅鐸、尊賢僧正收集古瓦、古瓦譜〔尊賢筆〕（以上石山寺）

特別陳列

「西大寺古絵図は語る

— 古代中世の奈良 —

9  
/ 14  
5  
10  
/ 6  
東新館

# I 西大寺の歴史とその伽藍

## II 平城京と西大寺

### Ⅲ 京北班田図と西大寺

## IV 西大寺と秋篠寺

V 西大寺古絵図が語るもの

◎西大寺寺中曼荼羅、南都西大寺中古伽藍圖(以上西大寺)、◎西大寺古伽藍敷地并現存堂舎坊院圖(東京大学文学部)、◎大和国西大寺伽藍繪圖(西大寺)、◎大和国西大寺往古敷地圖、◎大和国西大寺敷地圖、◎大和国西大寺敷地圖、◎大和国添下郡京北班田圖(西大寺)、◎大和国添下郡京北班田圖(東京大学文学部)、大和国添下郡京北班田圖△富岡本▽(大和文華館)、大和国添下郡京北班田圖△西岡本▽(東京大学史料編纂所)、◎大和国西大寺与秋篠寺堺相論繪圖(東京大学文学部)、◎大和国西大寺与秋篠寺堺相論繪圖(西大寺)、◎大和国西大寺領之圖(東京大学文学部)、額田寺伽藍并条里圖△復元圖▽(東京大学史料編纂所)、◎西大寺資財流記帳、◎西大寺三寶料田畠目録、西大寺文書(以上西大寺)、大元帥法秘抄(東京大学史料編纂所)、◎大毗盧遮那神變加持經△吉備由利願經▽、興正菩薩像(以上西大寺)、西大寺出土瓦、西隆寺出土瓦(以上奈良文化財研究所)、西大寺出土銅印(西大寺)、称徳天皇山莊跡出土品、平城京大内裏跡坪割之圖△北浦定政▽(以上奈良文化財研究所)、平城京及大内裏考△関野貞▽(東京大学)

平常展

## 「仏教美術の名品」

7/23  
本館・東西新館

主な出陳品

【工藝】 〔西新館北〕 7/23

◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺) 7/23

◎五輪塔嵌裝舍利厨子(不退寺) 〔9/1〕

◎三角五輪塔(淨土寺) 〔9/3〕

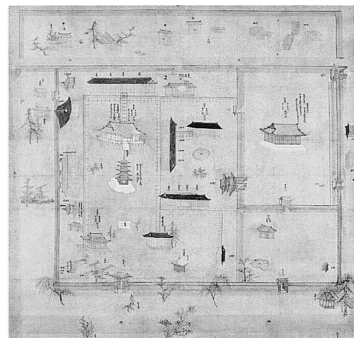
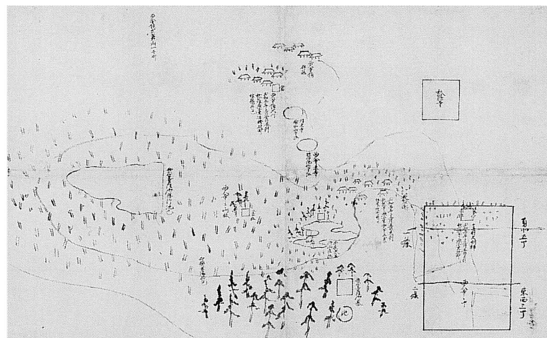
◎首懸駄都種子曼荼羅厨子(当館) 〔9/1〕、春日龍珠箱(当館)、◎金銅透彫経筒(万徳寺)、◎金銅透彫華籠(神照寺)、竹製華籠(性海寺) 〔9/1〕、◎黑漆蒔絵戒体箱(万徳寺)、◎金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、◎金銅透彫華鬘、金銅尾長鳥文華鬘(以上当館)、◎木製蓮華文華鬘(靈山寺) 〔9/1〕、◎金銅密教法具(嚴島神社)、◎銅鐃(円福寺)、◎金銅独鈷鈴(個人)、◎金銅三鈷鈴(個人)、金銅五鈷鈴(当館)、◎金銅宝珠鈴(個人)、◎牡丹文香合(当館) 〔9/1〕、◎椰蒔絵手箱(熊野速玉大社) 〔9/1〕

【考古】 〔西新館北〕 7/23

◎鬼面文鬼瓦(伝奈良・大安寺出土) 〔個人〕、◎鳳凰塼(南法華寺)、◎石製九輪(奈良・山村廃寺出土) 〔円照寺〕

◎粟原寺伏鉢(談山神社)、中国古瓦 〔9/8〕(かわら美術館)、◎佐井寺僧道薬墓出土品(当館)、◎青磁鉢(正暦寺)、◎鍍銀経箱、◎藤原道長願經(奈良・金峯山経塚出土) 〔以上金峯神社〕、◎朝熊山経塚遺物(三重・経ヶ峰経塚出





土▽（金剛証寺）、◎粉河経塚遺物、◎銅経筒・滑石外筒（以上当館）、◎紙本朱墨交書法華経△和歌山・王子神社経塚出土土▽（王子神社）、◎銅板経△大分長安寺経塚出土▽（長安寺）

特集展示

## 「重要文化財指定記念」

奈良県天神山古墳出土品

9  
/ 10  
S  
西新館

◎奈良県天神山古墳出土品 一括

方格規矩鏡6面、画文帶神獸鏡4面、内行花文鏡4面、三角緣神獸鏡2面、獸形鏡3面、画像鏡2面、獸帶鏡1面、人物鳥獸文鏡1面、鉄刀3口、鉄剣5口、鉄槍1口、鉄刀子1口、鉄鏃5本、鉄鈍1本

【彫刻】  
 〈本館〉  
 7  
 /  
 23  
 (

奈良時代の仏像 ○脱活乾漆：木造梵天立像、○脱活乾漆：木造伝救脱苦薩立像（以上秋篠寺）、○銅造誕生釈迦仏立像（正眼寺）、○脱活乾漆目犍連立像、○脱活乾漆舍利弗立像、○脱活乾漆緊那羅立像（以上興福寺）、○木造西大門勅額（東大寺）、○木造十二面觀音立像（葉師寺）、○銅造光背（東大寺）、○木造菩薩立像（金竜寺）、○木心乾漆文殊菩薩坐像（葉師寺）、○木心乾漆義淵僧正坐像（岡寺）、○木心乾漆阿閼如来坐像（西大寺）

平安時代初期の仏像 ●木造薬師如来坐像(当館)、●木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造吉祥天立像(法明寺)、◎

木造十一面觀音立像・葉師寺）、◎木造聖觀音立像（觀心寺）、◎木造千手觀音立像（園城寺）、◎木造十二面觀音立像（勝林寺）、◎木造十二面觀音立像（地福寺）、◎木造觀音菩薩立像（セノ）現代美術館

ガンダーラ：中国・朝鮮半島の仏教彫刻  
〔ガンダーラ〕石造菩薩立像（個人）、ストウツコ如来頭部（個人）、石造仏陀図浮雕（当館）〔中国〕◎木造諸尊仏龕（個人）、◎石造三尊仏龕（個人）、◎石造三尊仏龕、◎石造十二面観音立像（以上当館）〔朝鮮半島〕銅造如来立像（光明寺）、銅造如来立像（当館）

檀像 ◎木造觀音菩薩立像(本山寺)、  
◎木造菩薩立像(個人)、◎木造十二面  
觀音立像(當館)、◎木造十二面觀音立  
像(海住山寺)

小金銅仏　◎銅造觀音菩薩立像（金剛寺）、◎銅造觀音菩薩立像（法隆寺）、◎銅造觀音菩薩立像（觀心寺）、◎銅造菩薩半跏像（神野寺）、◎銅造菩薩立像（法起寺）、◎銅造菩薩半跏像（東大寺）  
 仮面　◎木造舞樂面・陵王（永室神社）

仮面 ○木造舞楽面・陵王（永室神社）  
 ○木造舞楽面・崑崙八仙（当館）、○木  
 造舞楽面・新鳥蘇、○木造舞楽面・納曾  
 利、○木造舞楽面・皇仁庭（以上春日大  
 社）、○木造舞楽面・散手、○木造舞楽面  
 胡德楽、○木造舞楽面・胡德楽勸杯、○  
 木造舞楽面・胡德楽瓶子取（以上手向  
 山八幡宮）

平安時代後期の仏像 ◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造増長天立像(明寺)

福寺)、◎木造十二神將立像(辰未・  
室生寺)、◎木造馬頭觀音立像(淨瑠  
璃寺)、◎木造地藏菩薩立像(長命寺)  
神仏習合の彫像 ◎銅造藏王権現立  
像(大峰山寺)、◎木造大將軍神坐像(大  
將軍八神社)、◎木造八幡三神坐像(葉  
師寺)

特集展示

## 「阿彌陀信仰の彫像」

7  
/ 23  
S  
本館

◎木造阿弥陀如来立像、◎木造重源上人坐像、◎木造菩薩面(以上淨土寺)、◎木造紅玻璃阿弥陀如来坐像(当麻寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(泉屋博古館)、◎木造阿弥陀如来坐像(東大寺)、木造地藏 龍樹菩薩坐像(当館)、木造宝冠阿弥陀如来坐像(安樂寿院)、木造阿弥陀如来坐像(当館)、木造阿弥陀如来立像(個人)、木造阿弥陀如来立像(個人)、木造阿弥陀如来坐像(金剛寺)、木造阿弥陀如来坐像(当館)、木造阿弥陀如来坐像(西大寺)、木造阿弥陀如来及び面脇侍像(峰定寺)、木造阿弥陀如来立像

【絵画】

〔西新館北〕 7/23  
旧福寿院障壁画〔長沢蘆雪筆〕△松虎  
図▽△8/25、△岩浪群鳥図・松鶴

図V〈8/27〉(以上薬師寺)  
 〈西新館南〉 9/14)

$$\begin{array}{r} 9 \\ \hline 14 \end{array}$$

◎当麻曼荼羅(西教寺)、◎当麻曼荼羅  
緣起(当麻寺)、◎阿弥陀聖衆來迎圖(松  
尾寺)、阿弥陀來迎圖、◎二河白道圖(以  
上當館)、◎釈迦阿弥陀發遣來迎圖(雪  
刃寺)、◎十王圖(陸仲淵筆)(當館)、◎

【書跡】  
 〈西新館南〉  
 9  
 /  
 14  
 (

◎大般若經／魚養經／(葉師寺)、◎一字蓮台法華經(龍光寺)、◎法華經序品(寶嚴寺)、◎紺紙金字一字寶塔法華經(當館)、◎法華經(長谷寺)、◎紺紙金銀交書大般涅槃經卷第十二(金剛峯寺)、◎唐人送別詩並尺牘(園城寺)、◎泉涌寺勸緣疏(泉涌寺)、◎大福田寺勸進狀(大福田寺)

特別出陳（本館）

●藥師如來立像（唐招提寺金堂）

特別出陳〈西新館北〉

◎藥師三尊像（藥師寺講堂）

●国宝　◎重要文化財

出陳品は、都合により一部変更する場合があります。



奈良博  
NEWS

奈良県  
天神山古墳出土品  
重要文化財に指定

天神山古墳は奈良県天理市柳本町の伊射那岐神社境内の東方に所在する全長三〇メートルの前方後円墳で、東には崇神天皇陵に当てられる行灯山古墳が、北西には三十三面の三角縁神獸鏡を出土した黒塚古墳が存在し、いずれも柳本古墳群に属しています。天神山古墳は昭和三十五年（一九六〇）に発掘調査が行われ、後円部頂部のほぼ中央部に位置する竪穴式石室の中から大量の朱を含む木櫃とその周囲から三十三面の鏡や、多くの鉄製刀剣類などが出土し、現在は奈良国立博物館に所蔵されています。銅鏡の内訳は、方格規矩鏡六面、画文帯神獸鏡四面、内行花文鏡四面、獸形鏡三面、画像鏡一面、獸帯鏡一面、三角縁変形神獸鏡二面、人物鳥獸文鏡一面からなります。天神山古墳の年代は四世紀後半ごろとされていますが、これらの鏡の中には前期古墳でよく出土する典型的な三角縁神獸鏡が含まれず、後漢時代の方格規矩鏡や内行花文鏡を主体とし、日本製とみられる特殊な三角縁変形神獸鏡や、弥



流雲文縁方格規矩鏡（天神山古墳出土）

生時代の銅鐸に通じる文様をもつ人物鳥獸文鏡が含まれます。また、鉄製品は鉄刀三口、鉄剣五口、鉄槍一口、鉄刀子一口、鉄鏃五本、鉄鉞一本からなります。これらは大和政権の成立を考える上で注目され、本年六月重要文化財に指定されました。なお、これらの鉄製品や鏡を含む出土品は、一括して平成十年度から十三年度にかけて保存修理が行われました。修理の結果、鉄製品はこれまで不明確であった形態や員数が明らかにになり、また鏡は今までとは見違えるぐらいに鮮明な文様が見られるようになりました。

特集展示 阿弥陀信仰の彫像（7/23～）

今回の特集展示のテーマは、私たちにとって最もなじみ深いほとけの一つ、阿弥陀如来です。西方極楽浄土で瞑想・説法する姿、信者の臨終時に来迎する際の姿をあらわした像はもちろん、密教式の宝冠阿弥陀、衣をまとわない裸阿弥陀、霊像として名高い信濃善光寺本尊を模した阿弥陀像など、珍しい形式の像も紹介します。また来迎の様子を再現する儀式で用いられた仮面なども展示します。この機会にぜひ、人々の浄土に対する強いあこがれが結晶した名作の数々をご鑑賞下さい。

特集展示 重要文化財指定記念 奈良県天神山古墳出土品（9/10～）

今回、奈良県天理市所在の天神山古墳出土品（館蔵品）が重要文化財に指定されたのを記念して、その全容を公開します。大和朝廷の成立を考える上に重要な鏡や、今回の修理で実態が明らかになった鉄製品などを展示します。

●公開講座●

- 8月10日（土）「石山寺の聖教」 東京大学文学部助教授 月本 雅幸  
8月24日（土）「石山寺の歴史と文化財」 奈良文化財研究所歴史研究室長 綾村 宏  
9月 7日（土）「石山寺縁起絵巻について」 富山県立大学工学部助教授 原口志津子  
9月22日（日）第1講「西大寺と称徳天皇・道鏡」 東京大学文学部教授 佐藤 信  
第2講「西大寺所蔵資料と北浦定政」 奈良文化財研究所歴史研究室長 綾村 宏  
9月29日（日）第1講「西大寺と秋篠寺」 東京大学史料編纂所教授 石上 英一  
第2講「西大寺の建築について」 東京大学工学部助教授 藤井 恵介

※13時30分から15時まで。  
9月22日・29日は、第1講は13時30分～14時15分。第2講は14時25分～15時10分。講堂にて。聴講は無料。定員は各回200名の先着順。

●ギャラリートーク●

- 8月14日（水）「石山寺の彫像」 企画室長 岩田 茂樹  
9月11日（水）「奈良県天神山古墳出土品について」 仏教美術資料研究センター長 井口 喜晴

※いずれも14時から、展示室にて。入館者の聴講自由。

●「親子の文化財教室」「奈良時代の歴史と美術」受講者募集●

- 7月13日（土）奈良時代の寺院 仏教美術資料研究センター長 井口 喜晴  
8月10日（土）奈良時代の彫刻 仏教美術研究室長 松浦 正昭  
後期予定  
9月 7日（土）世界遺産の寺院 企画室長 岩田 茂樹  
ー東大寺を訪ねてー（現地見学） 主任研究員 稲本 泰生

※小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。  
※はがきに、「親子の文化財教室参加申込」と記入の上、氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望される月日（いくつでもかまいません）を必ず記入して、教育室までお申し込みください。（FAX可 0742-22-7221）  
※当館講堂において10時から12時までおこないます。  
※後期（9月から12月までの第2土曜日）の募集を受け付けています。

●ボランティアによる解説●

ボランティアによる解説を、開館日の10:00～13:00、13:30～16:30の時間帯に展示室でおこなっています。20名以上の団体の場合は、事前にご相談のうえ、ご予約をお願いします。  
ご予約・お問い合わせ先：教育室 宮田（電話0742-22-7008）

●展覧会日程●

	7 月	8 月	9 月
本 館	東大寺のすべて（～7/7） 休館（7/8～7/22） 平常展〔彫刻〕（7/23～）		
西 新 館	東大寺のすべて（～7/7） 休館（7/8～7/22） 平常展〔工芸・考古〕（7/23～10/6）	観音のみてら 石山寺（8/9～9/8） 平常展〔絵画・書跡〕（9/14～10/6）	
東 新 館	東大寺のすべて（～7/7） 休館（7/8～8/8）	観音のみてら 石山寺（8/9～9/8） 休館（9/9～9/13） 西大寺古絵図は語る（9/14～10/6）	



# 展示品の 見どころ

## いしやまでらえんぎえまき 石山寺縁起絵巻

重要文化財  
鎌倉・室町・江戸時代 石山寺  
7巻 各縦約34cm



鎌倉時代には、各地の寺院や神社で、それぞれの創建の由来や本尊のご利益などの説話を集成した、縁起絵巻がさかんに製作された。石山寺の場合も、正中年間(1323～26)に、本尊の観音の化身の数にちなんだ三十三段からなる縁起絵巻が計画され、まず詞の撰述はなったものの、絵巻の製作はかならずしも順調に進まなかったようである。現存の全七巻は、詞書・絵の両方の作風から、第一・二・三の三巻、第四巻、第五巻、第六・七の二巻の四群に分かれる。ここでは絵に限って見ると、第一の群(掲出の図は、そのうち第一巻の第三段で、石山寺建立時に敷地から宝鐸が出土したという話を描く)は、延慶二年(1309)の「春日権現験記絵巻」(宮内庁三の丸尚蔵館所蔵)に代表される、鎌倉時代後期に宮廷画所絵師の高階隆兼によって確立された大和絵の様式を示すものであり、おそらく最初の正中頃の作とみなされよう。平安時代の「信貴山縁

起絵巻」に見られるような、説話画系の大和絵の生き生きとした線描による人物描写の伝統を正しく継承し、各部分を鮮麗に塗り分ける彩色を伴って、端正な、しかし見ようによっては、いささか窮屈でうるおいに乏しいところもなくはない画風である。ただし、「春日権現験記」にくらべると若干形式的な固さが見受けられるので、隆兼自身の手になるのではなく、弟子あたりの作かと推測される。この一群のほか、第五巻はそれよりやや降る頃の、すこし系統を異にする絵師の作、第四巻は室町時代の土佐光信の作と考えられ、そして第六・七巻は江戸時代の谷文晁の作であることがはっきりしている。このように時代や画系は様々ながら、全体としての調和を乱すことなくできあがっている絵巻の美しい現状は、世々変わらぬ石山寺に対する信仰そのものの姿ともいえよう。

(美術室長 中島 博)

■開館時間 9時30分～17時(毎週金曜日および8月15日(休)は19時まで)  
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日(ただし8月12日、9月16日・23日(月)は開館、  
9月17日・24日(火)は休館)

■観覧料金

平常展	大人		大学・高校生	
	一般	団体	一般	団体
	420円	210円	130円	70円
特別展	大人		大学・高校生	中学・小学生
	一般	団体	一般	団体
	830円	560円	450円	250円
			250円	130円

\*団体は責任者が引率する20名以上。  
\*「観音のみてら 石山寺」開催中でも、本館のみ観覧のかたは、平常展料金で入館できます。  
\*特別陳列及び特集展示は、平常展料金でご覧いただけます。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画室にお申し込みください。



奈良国立博物館  
Nara National Museum